

目 次

本校校長より	1
本事業の概要	2
カリキュラム開発等専門家より	4
地域協働学習実施支援員より	5
熱高ラボ	6
熱海ラボ	12
ビジネス観光類型	20
福祉類型	26
パソコン部	31
報道部	33
吹奏楽部	36
ボランティア部	37
エイサー部	40
キャリアカフェ	42
地元企業ガイダンス	44
インターンシップ	46
教科グループ	52
評価開発グループ	59
校内地域連携推進委員会	64

はじめに

静岡県立熱海高等学校
校長 鈴木 康之

本校は、今年度創立 80 周年を迎えた熱海市唯一の高校です。日本有数の観光都市でもあり、高齢化をはじめとする「社会課題の先進地域」でもある熱海市は、本校にとってまさに生きた教材であり、以前より「高校生ホテル」をはじめとした様々な地域連携の取り組みを行ってきました。

令和元年度より、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」の研究指定を受け、研究開発名を「外部資源を有効に活用した、地域を担う『人財』の育成～地域に育ち、地域に育ててもらふキャリア教育～」として、3年間研究活動を行ってきました。本冊子は、本事業の最終年度における研究成果を取りまとめたものです。本事業に御支援・御協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、御一読いただき、本校の取り組みに対しまして、御助言・御指導を賜りますと幸いです。

今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に頭を悩まされていたところ、熱海市は、昨年7月、伊豆山地区の大規模土石流災害という想像を絶する悲劇に見舞われました。そのような状況の中、避難先のホテルにおける子供たちの居場所づくりのボランティアや、被災地区の高齢者に対する現地での聞き取り調査等に、本校生徒が携わる機会をいただけたことは、地域と関わり、その中で自分たちの役割というものに気づき、深く考える貴重な学びとなりました。さらに、1年生の総合的な探求の時間「熱高ラボ」における自由研究において、「防災」を自発的にテーマに掲げ、フィールドワークを重ねるグループが現れるなど、地域が抱える課題を“自分事”として捉え、地域貢献を志す生徒が増えたことについては、非常に喜ばしいことでした。

また、生徒の達成感や自己肯定感・自己有用感の向上が、アンケートの結果から窺えることは、本事業の成果であり、今後も継続して学校全体で伸ばしていきたい点です。そして、生徒が地域の社会人と接することで、一回りも二回りも大きく成長していく姿を見せてくれたことが、何よりの収穫でした。

コロナ禍により、本事業の当初の計画からは、その多くが実行に移せず、教職員一同忸怩たる思いでいることは間違いありません。しかしながら、自分の思うようにならない、予想外の展開の中で、苦労しながら道を探る時間は、生徒のみならず教職員にとっても、自身を成長させ今後生きる上で糧となる貴重な体験であったと思います。本事業の終了後も、予測不能なこの社会において、地域

が抱える課題を自ら探り引き受け、解のない課題に主体的に立ち向かう“人財”を、地域と密接に連携し“チーム熱海”で育成し続けることが、本校の使命であると考えます。関係の皆様には、引き続き本校の教育活動への厚い御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本事業の概要

外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成 ～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～

事業の目的・目標

地元企業、自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、地元小中学校、伊豆半島ジオパーク推進協議会等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通して、地域への課題意識や貢献意識を高め、地域を担う「人財」（人材）の育成を図ります。

（１）本事業を通じて育成する地域人材像は次のとおりです。

本事業では、地域が抱える課題を自ら探り、課題解決のために主体的に取り組む人材のことを「**熱海人(あたみんちゅ)**」と名付けました。沖縄の方言で「海人(うみんちゅ)」は海と深く関わりのある漁師を指し、「ウチナーンチュ」は地元を愛する沖縄本島の人々を意味します。沖縄に負けず劣らず美しい海と山に囲まれた熱海で、地元を根ざし、誇りを持って生きる人材が育まれるよう願いを込めました。具体的には以下の6つの資質・能力を兼ね備えた人材と定義します。

- (ア) 「課題先進地域」2050年の日本の地方都市「熱海」が抱える課題を「**自分事**」としてリアルに考えることができる人材。
- (イ) どんなに困難な課題であっても**あきらめずにしがみつく**人材。
- (ウ) 高校生の特権である正義と公正と理想を武器にひるむことなく**大人と渡り合える**人材。
- (エ) 現実に直面し、くじけそうになっても、**仲間と協力し新たなアプローチを考え出す**ことができる人材。
- (オ) 見返りを求めず、**地域住民の喜ぶ顔を見て良かったと思うことができる**人材。
- (カ) たとえ、**熱海でないどこかであっても同様にその地域の抱える課題に立ち向かい、地域のために貢献できる**人材。

（２）卒業までに生徒に習得させる具体的能力は、次のとおりです。

（１）の人材像を踏まえ、本事業を通じて生徒に習得させる能力は、「探究力」・「主体性」・「協調性」の3つの能力を想定しています。解のない課題に立ち向かうためには、これらの能力が必要不可欠であると考えています。

能力	具体的能力の構成要素
探究力	読解力、文章表現能力、数的処理能力、価値の創造、好奇心、知識欲、解決欲求、表現力、思考力、判断力
主体性	リーダーシップ、自発性、自主性、積極性、自律性、やり抜く力、企画力、創造力、提案力
協調性	コミュニケーション能力、共感力、チーム志向、敬愛、協力、フォローシップ、多様性、寛容、受容

プロジェクト名 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）

管理機関：静岡県教育委員会
地域協働推進校：静岡県立熱海高等学校



プロジェクトの趣旨・目的（文科省）
高等学校と市町村、大学、産業界等が協働して①コンソーシアムを構築し、高等学校における②地域課題の解決等の探究的な学びを通じ、③未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けることと、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、④地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材（三地域人材）の育成を図ることとする。

研究開発構想名
I 外部資源を有効に活用した、地域を担う『人材』の育成～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～
II 研究開発の概要
地元企業、自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、小中学校等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通じ、地域への課題意識や貢献意識を持ち、地域を担う『人材』の育成を図る。
III 研究の目的
全国平均27.79%の高齢化率に対し、47%の熱海市は少子高齢化に伴う人口減少等、現代社会の諸課題を先取りしている地域であり、本校はこうした課題を抱える熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで、総合的な探究の時間や各教科等における教科横断的探究活動を通して、将来の日本の地域社会を先取りした熱海市の課題を自分ごととして捉え、地域と協働することによりその解決方法を自立的に探り、さらに熱海ならではの新たな価値の創造を目指す人材を育成することを目的とする。

④どんな地域人材を育成するのか？＝熱海人（あだみんちゅ）

- ①「群島先進地域」
2050年の日本の地方都市「熱海」が抱える課題を「自分事」としてリアルに考え、
- ②どんなに困難な課題であってもあきらめずにしがみ付き、
- ③高校生の持性である正義と公正と理想を武器にひるむことなく大人と渡り合い、
- ④たとえ、熱海でないとこかであっても同様にその地域の抱える課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材
- ⑤見返りを求めず、地域住民の喜ぶ顔を見て良かったと思ひ、
- ⑥現実に直面し、＜UJIF＞そうになっても、仲間と協力し新たなアプローチを考え出し、

③未来を切り拓くために必要な資質・能力 ⇒ 熱海高校で育成する3つの能力

探究力

読解力、文章表現力、
教的处理能力

価値の創造、好奇心、
知識欲、解決欲求

表現力、思考力、
判断力

主体性

リーダーシップ、
自発的、自主的、
積極性、自律性、
やり抜く力

企画力、創造力、
提案力

協調性

コミュニケーション
能力、共感力、
チーム志向、敬愛、
協力

フオロワーシップ、
多様性、寛容、受
容

＜本校の教育方針＞
・自発的に学習し、自主的に判断し、自律的に行動できる人間の育成
・民主的な社会の形成者として、敬愛と協力の精神を持ち、誠実に生き、かつ働く健康な人間の育成
・故郷を大切にし、将来にわたる地域を支える人間の育成



②「地域課題の解決等の探究的な学び」を進める方法

立方向かえ 解のない課題へ

I 総合的な探究の時間（探究・教科横断的学習）【桃陵】

- II 授業
- III 部活動
- IV 特別活動

II 授業での取組例

- 商業 高校生ホテル、ツアープラン、商品開発、実習、起業家育成プロジェクト
 - 福祉 多賀小との交流、実習、介護食の開発
 - 英語 観光チラシの作成、街頭インタビュー対策
 - 国語 効果的なインタビュー、プレゼン方法
 - 社会 熱海の史跡（神社等の歴史）
 - 理科 熱海のジオ
 - 家庭 熱海特産品の調理法開発
 - 保健 健康増進（温泉の効用）
 - 数学 データ分析等
- III 部活動での取組
- ・エイサー部、ホランテイア部
 - ・地元施設訪問、イベントでの発表、手伝い等の地域貢献、異校種交流
 - ・運動部
 - ・地元祭りへの参加
 - ・報道部
 - ・企業とコラボした広報誌作成
- IV 特別活動
- ・熱海市2030会議参加、子ども食堂開催
 - ・社会人講話

I 総合的な探究の時間（桃陵）

- ・ 地域課題のテーマ設定、解決方法
- 「観光」観光と地場産業
- 「福祉」高齢化、バリアフリー
- 「防災」津波対策
- 「国際交流」外国人労働者
- 「エネルギー資源」温泉活用
- ・ 企業、自治体と協働し企業が求める人材の考察を通じ、将来にわたる地域を支える人間の育成

現在の熱海

年少人口 3%

生産年齢人口 50%

高齢人口 47%

30代未婚率全国

ワースト1位

48.5%

空家率 50.7%

静岡県

ワースト1位

生活保護者率

1.67

静岡県

ワースト2位

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 船戸 修一

地域社会の新たな担い手としての高校生の役割

：県立熱海高校の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」から見てきたもの

2019年度から開始された「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」は、市町村・大学・地元の経済団体などと協働し、地域課題の解決などに取り組む高校の機能強化を図るものであった。ここ熱海高校でも1年生の『熱高ラボ』や2年生の『熱海ラボ』などの授業を通じて地域の課題解決を図ってきた。

これらの授業では熱海という立地から往々にして観光関連業、例えばホテル業や観光客を対象とした物産品店などとの協働が多かったと思われる。もちろん地域課題の解決を前提とするならば地域経済の軸である観光が大きな比重を占めるのは当然である。しかし、観光客は一時的にお金を落としてくれるが、常に地域に居住し続けているのは地域住民に他ならないため、まず地域住民との協働も図る必要がある。この点を踏まえると、昨今、熱海高校で取り組みが始まった「高齢者支援」や「地域防災」という点は大いに評価できる。

福祉科では、市内の高齢者を対象に交通手段への悩みについて聞き取り調査を実施し、福祉マップの作成に取り組んでいる。地域の人口減少を背景に利用者が少なくなった公共交通の縮小は全国的に波及している。ここ熱海も例外ではなく、運転免許を所持していない高齢者は移動に制約を受けている。そのため、高齢者が安心して利用できる交通サービスの構築に福祉を学ぶ高校生が加わることは大いに意義がある。

さらに「防災」については、すでに熱海高校では「南海トラフ」「相模トラフ」など巨大地震を想定し、地元住民を対象とした「防災ツアー」を実施している。これまで熱海を含む広範囲で起こる災害を想定していたが、昨年7月3日に発生した熱海・伊豆山土砂災害は、局所的かつ地震以外の災害が発生することを気づかせた。今回の災害は大変不幸なことであるが、熱海は傾斜地が多く、背後を山に囲まれた地域である以上、今後もこのような災害が起きないとは言えない。このような地理的条件を踏まえると、日頃から防災という啓蒙活動は必要である。

そもそも災害が発生した場合、地元の消防団が果たす役割は重要である。しかし、この消防団は、これまで地元の成人男性によって構成されてきたが、近年、地域の人口減少に伴い、消防団の担い手不足が指摘されている。このような地域事情を背景に女性や大学生が消防団に加わる事例が全国で見られている。例えば、千葉県千葉市にある淑徳大学では2010年に「学生消防団」が発足している。和歌山県紀の川市にある近畿大学生物工学部でも、同様の学生消防団が発足している。さらに2020年には神奈川県茅ヶ崎市の高校3年生が地元の消防団に加わったことが報道されている。よって甚大な災害を経験した熱海であるからこそ、熱海高校も地元の消防団だけでなく、自主防災の軸となる町内会や自治会との協働は必要であろう。それが今後の熱海高校の魅力化の一つとなり得ると思われる。

地域協働学習実施支援員より

水野綾子（合同会社 TURNER 代表社員）

公共は“超主体”から生まれる

最近、市の移住冊子の企画編集をさせていただいた。

参考資料として県内他地域の移住冊子をリサーチしたところ、どの市町村も「うちの地域はこんないいところがある。だから移住してくれ」という内容だった（さらに言うと、表紙は海か自然、もしくは子育て環境の充実さを謳ってファミリー層に届けたいからか、家族写真か子供の写真のどれかだった）。

地域に人が集まればシンプルに財政も潤う。移住促進のゴールは移住者数増加と多くの人は思うのかもしれない。だが、抜本的な解決や変化をせず、減り続ける限られた人数（パイ）を地域で取り合うのには限界がある。

これまで熱海の官民連携型のまちづくりの取り組みにも関わらせていただいたが、熱海のスタンスは「関わってくれたらもう熱海の人」「熱海を活用して、それぞれのキャリアや人生を豊かにしてほしい」というものだった。移住せずとも、多様な関わり方を作ることや、その人の生き方を一番に大事にして欲しいというスタンスだ。

昨今の研究では、「寛容性」の高い街の方が都市的で人が集まると言われている。自分の地域に来てくれとアピールし、来てくれた人を抱え込むのではなく、多様な接点や機会を用意しておくことや、彼らが望むか関わり方をしてもらう方が大事なのではないだろうか。

今回、先生たちは皆「評価や授業を通じて、一人ひとりのキャリアに活かしてもらいたい」とお話しされていた。地域に接続した学びの機会作りをすることで、生徒を地域に留めさせるのではなく、生徒一人ひとりの人生に何か役に立てばいい、と。目線を合わせて一緒に動いていることが、改めてとても嬉しい。

また、新たなカリキュラム策定には、担当されている先生の思いが込められているところが非常に印象的だった。「属人的にならず、教師の異動前提でどう同じカリキュラムが続けられるか」「地域との連携をどう継続的にできるか」など、先生がぶつかった壁に対しての、解決策を提示している。

現在、公共とされるものや、世の中に一般的に広まっているものも、最初は誰かの主体的な一歩から始まっている。つまり、超主体（言い換えれば個人的な思いや行動の源泉）がないと何も始まらない。

先生方は、生徒を指導する立場として、個人の意思よりも大事にするものは多いと思う。けれど、先生方がどうしたいのか、どういう日々を送りたいのか、どんなキャリアを積んでどう生きたいのか。そこへの立ち返りや向き合うことが、より良い学校や教育環境にもつながるかもしれない。私自身、先生方とそんな話をしたいと、改めて感じた。

熱高ラボ

対象生徒：1年生全員
指導教員：1年部教員

地域連携実施協力者
熱海の商業施設、役所、消防団の方等

取り組みの概要

「熱高ラボ」は、1年次の総合的な探究の時間として本校に設けられている「桃陵ゼミ」の中で実施される活動である。この「熱高ラボ」では、地域の中に潜む問題や課題を発見するために、どのように情報を収集したら良いかということや、収集した情報をどのようにまとめアウトプットするのかということに関する基本的な能力を育成することを目的としている。

本校の現状として、卒業生の多くが将来地元に残るかいずれは戻ってきている。地域社会の中での活躍を想定した場合、地域の現状と課題を知ることが重要である。たとえ地元で働くことはなかったとしても、人口減少や少子高齢化という日本の多くの自治体が抱える問題に直面している熱海について知ることは、日本の未来を考える上でも大切である。今日これからの時代を担う生徒には自ら課題を設定し、それを解決する能力が必要とされている。

そのために、1年次では自らの関心と地域の課題を結びつけながら、調べ学習やフィールドワークを通して地域を知る「熱高ラボ」を行っている。2年次に行われる「熱海ラボ」では、地域とより深くつながり地域で活躍する人材（熱海の地元企業の方々）と協働して、地域の課題についてその解決策をまとめるため、次年度への基礎固めの役割もある。

今年度は、生徒の関心を調査した上で、大テーマとして「街」「防災」「土産」「海」の4つを設定し、それぞれのテーマごとの集団で分かれた。その後、テーマ集団の中で同じようなことに興味関心を持つ生徒同士で3～4人のグループになるように調整した。大テーマ内の各グループでは、自分たちが調べたいテーマを決めて調べ学習を行うことで、テーマに関する課題とその解決策を見出し、発表することを到達目標とした。今年度は7月3日に伊豆山地区で大規模な土砂災害があったこともあり、防災に関心を持つ生徒が多かった。

9月からスタートした活動では、まずは自分たちが何を、どのような方法で調べるのか、そのテーマにはどのような問題があるのか、フィールドワークの計画等をグループで話し合った。その後、大テーマごと中間発表を行い、自分たちのグループの調査計画を示した。他のグループは発表者への質問やアドバイスを適宜行った。その後、2度のフィールドワークを通して、必要な情報を自らの足で集めるようにした。それに際し、地域の企業や商店、商業施設、役所、団体にご協力をいただく必要があるグループも多く存在したが、事前のアポイントメントや交渉についても生徒自身で行うこととし、あくまでも教員は生徒が行動する前の確認やアドバイスを行うに留めることとした。ただ、新型コロナウイルス流行に伴い、2度目のフィールドワークは電話インタビューになるグループも多かった。

最終的なアウトプットの形として、各グループで収集した情報から導き出した問題や課題とその解決策・結論をまとめ、「keynote」というプレゼンテーションソフトを使用してまとめ、各グループ3分で発表を行うこととしている。この活動全体を通して、問題や課題の

発見から情報収集、それらをまとめ解決策を導き出し発表するという一連の過程について、生徒が主体的に取り組むことができるようになることを目指している。

取り組んだこと

9月16日（木）5限 ①オリエンテーション

中学校での総合的な学習の時間で何に取り組んだのか振り返った上で、担任がパワーポイントを使って「熱高ラボ」の紹介をした。その上で、自分が調べてみたいテーマについて考えさせた。その際に、やらされてやる調べ学習ではなく、本当に自分が知りたいこと・調べることが楽しくなるものになるよう呼びかけた。ここで出た各自のテーマ案をもとに、学年部の教員で話し合った結果、今年度の探究テーマのカテゴリを「街」「防災」「お土産」「海」の4つに分けることとなった。

9月30日（木）6限 ②グループ分けとテーマ設定

4つの大テーマごとに分かれ、興味の対象が近い者同士でグループを組み、その中で班長や渉外、記録係などの役割を決めた。その後、グループで調べたいことを考え、その調査方法・そのテーマにはどのような問題があるのかなどを考えた。各グループには1台ずつタブレットを配布し、参照できるようにした。班ごとに設定したテーマは、以下の通りである。

カテゴリ	班番号	テーマ
海	1班	熱海の海の映えスポットを探そう
	2班	長浜海岸にはどのようなゴミが多いか（ゴミの分類）
	3班	熱海の海岸にはどのようなゴミが多いか
	4班	長浜海岸は安全か？危険か？
	5班	熱海と伊東の釣果の違い
お土産	1班	年代別で一番売れているお土産を探そう
	2班	観光客が買いやすいお土産を探そう
	3班	熱海で人気商品を参考に、商品開発をする
	4班	観光客に人気のお土産は何か
	5班	みんなが買いたくなるようなお土産を探そう
	6班	喜ばれるお土産とは何か
	7班	熱海で若い世代の人に人気のお土産は何か
街	1班	熱海はアニメやドラマのどのような場面で活用されているのか
	2班	熱海のオススメスポットの特徴と土産
	3班	熱海の温泉のお湯の効果
	4班	熱海の温泉の歴史について
防災	1班	災害時にどのような支援があるか、どのような支援ができるか
	2班	「避難指示」で住民は本当に避難するのか
	3班	ハザードマップと避難地（学校）の関係

10月30日(木) 5限、11月11日(木) 5限 ③・④調べ方・まとめ方を学ぶ、情報収集

グループに分かれ、自らのテーマについて「どのような問題があるのか」「その問題についてどのような仮説・結論が成り立つか」「どのように調べたら良いか」などを話し合った。



11月18日(木) 6限 ⑤中間報告会

自分たちが設定したテーマについて、ここまで調べた内容や第1回目のフィールドワークの計画など、今後の見通しについて大テーマごとの教室で報告し合った。生徒は、タブレット上の資料をプロジェクターで投影しながら発表を行った。他のグループは発表を聞きながら、アドバイスや疑問点について述べた。



11月25日(木) 5限 ⑥中間報告会の反省、インタビューの準備

前回の中間報告会で他の班からのアドバイスや疑問点を受け、調査の修正・見直しを行った。また、12月2日(木)に行われるフィールドワーク第1回に向けてアポイントメントが必要な場所については、生徒自身が取材先に電話をかけ、当日のインタビューをお願いした。普段なかなか話することがない企業や役所の方との交渉に際し、何をどう伝えれば良いかわからず苦労している者もいたが、生徒にとっては良い経験となった。取材を協力して下さる方々も限られた時間の中で対応して下さるため、当日に何う質問項目の精査も行った。

12月2日(木) 5限、6限 ⑦フィールドワーク第1回目

自らの設定したテーマについて、現地調査・インタビュー等を行った。各グループが決めた行き先へ出向き、実際に目で見て耳で聞き、肌で触れることができた。



【「お土産」班の取材風景】



【「海」班のゴミ収集の様子】



【「街」班のインタビューの様子】



【「防災」班のインタビューの様子】

12月9日（木）2限、1月17日（月）3限 ⑧・⑨フィールドワークの振り返り

第1回目のフィールドワークで収集した情報の整理と、不足している資料や課題の洗い出しを行った。その結果、次回の第2回目のフィールドワークで行くべきフィールドワーク先の選定やインタビューをお願いする方への質問事項を考えた。フィールドワーク先にアポイントメントが必要なグループは、前回と同様に生徒自身が取材先へ電話をかけ、インタビューの依頼を行った。

1月27日（木）5・6限 ⑩フィールドワーク第2回目

前回立てた計画にしたがって、第2回目のフィールドワークを行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、対面でのインタビューや街中への現地調査は中止とした。本校以外の生徒や教員と出会う可能性の少ない、海岸での調査やハザードマップを確認するグループのみ外でのフィールドワークとなった。インタビューを予定していたグループは電話での取材を行ったり、事前に収録した講演会の動画を視聴したりするなど、校内での情報収集・整理を行った。

2月3日(木) 6限 ⑪発表会資料づくり

これまでの調査をもとに、各グループごとに発表準備を行った。発表の形式については、Keynote を使用してプレゼンテーション資料を作成し、各グループ3分ずつの発表時間をすることとした。まずは発表の型を伝えた上で、A4用紙に発表計画を書かせるようにしたため、どのグループもスムーズに準備を行うことが出来ていた。その一方で、調べたことをただまとめるだけでなく、一つの結論や仮説を導かなければいけないという点について、苦労している生徒も多かった。自らの興味を一つの形にすることの難しさを実感したようであった。

2月17日(木) 5限、6限 ⑫発表会資料づくり

3月16日(水)に行われる発表会に向けて、各グループごと発表の資料を完成させた。また、3分という発表時間を考えながら、メンバーごとの担当を割り振り、発表原稿も作成した。簡潔にわかりやすく伝えるために、試行錯誤しているようであった。

【スライド作成の例】

タイトル「 」 大テーマ「 」 メンバー（ ）	テーマ設定の理由 どんな問題があるか	調べたこと
フィールドワーク計画	フィールドワークで 得た情報	まとめ 問題点の解決策・提案

取り組みの成果

①今年度の「熱高ラボ」を開始するにあたって特に気をつけたのが、生徒がやらされてやる活動にしないということであった。生徒が本当に調べたい・学びたいという興味・関心の芽からスタートすることができたため、ほとんどの時間で生徒はグループで協力し合い、積極的に必要な情報を集めているようであった。

②調べ学習やフィールドワークを通して、熱海という地域の魅力に気づいたり、熱海で働く方々と交流したりすることができた。多くのグループが行ったインタビューでは、生徒たちは意欲的に質問していた。

③昨年度は準備時間の確保や資料の引き継ぎを行うことが反省点として挙げられていた。しかし、今年度は桃陵とLHRの時間を精査して時間を確保し、また以前からのワークシートを引き継いだ上で改良することもできたため、担当する教員も生徒の支援がしやすかったように思う。今後の反省点としては、生徒の興味・関心から出発したテーマを、いかに地域課題の解決という大きなミッションに昇華できるかどうかということであろう。

今後取り組むべきこと

①普段の授業との連携

Keynote の使い方を情報の時間で行う、発表の仕方・プレゼンの方法について国語や英語の授業で行うなど、普段の授業との連携を行えば、総合的な探究の時間のみの独立したものではなく、学校の教育活動全体の流れとして、生徒の資質・能力を育むことができるだろう。

②次年度から始まる新教育課程への引き継ぎ

今年度の活動内容を次年度に引き継ぎ、来年度から始まる新教育課程の1年生の総合的な探究の時間がより充実したものになるようにしたい。

熱海ラボ

対象生徒：2年生全員

指導教員：2年部教員

取り組みの概要

「熱海ラボ」は熱海高校独自の総合学習授業のひとつです。

地域を知り、地域と連携することで生徒たちの考えや価値観を広げる（結果として地域に対する愛着も育てる）プログラムです。

2018年からコース選択が済んだ2学年生を対象として取り組みがスタートし、今年で4年目を迎えます。

生徒の多くは、家族（親）や先生以外の大人との接点がありません。多様な熱海の大人との関わり代（大人のキャリアや今何をしているのか、なぜ熱海を選んで移住、起業したのかなどのプレゼンを聞く／企業の課題調査と解決策を考えるフィールドワークなど）を作ることで、生徒の価値観や視野を広げる機会を作ってきました。本気の大人と対面することでスイッチが入る生徒、チームの中で得意分野を見つけてくれる生徒など、熱海ラボを通して変化した生徒がいてくれたように感じています。

本授業で大切にしたいこととしては、大きく以下を想定しており、

- ・先生や親以外の大人と触れることで、地域の面白さを体感してもらう
- ・生徒の視点や価値観を広げる
- ・地域を活用して小さな成功体験を積んでもらう

熱海ラボで目指す先は、

- ・熱海という街を使ったキャリア開発プログラム

であり、生徒たちが自分と向き合い、よりよく生きていく力を身につけること。

上記に焦点を絞りプログラム設計を行ってきました。

熱海ラボ第1期の学生（社会人1年目）は地域の良さや価値を体感したこともあり、熱海及び近辺地域での就職数が伸びました。ですが、あくまでも「地域に残ってほしい」や「地域のために何ができるか」を考えて欲しいとは思っておらず、熱海という場やそこにいる人たち、熱海で生まれた事例を“活用”することで、生徒たちの価値観や視野、可能性を広げていければと考えています（結果、熱海企業への就職を選択する人がいてもいいと思います）。

【コンセプト】

地域で暮らす、働く大人の生き方を知ることから「自分のやりたい」を見つけるきっかけづくりをする。

熱海で働き、暮らす大人たちを通して生徒たちの価値観を広げると同時に、多角的に熱海を知る機会を作ります。インプットだけではなく、インプットを経て自分自身の「マイプロジェクト（自分がやりたいこととも向き合いながら、身の回りの課題や興味からテーマを立て、1年かけて向き合う）」を作り、そのプロジェクト発表まで繋げます。また6月までにプロジェクト発表まで実施しますが、それ以降も定期的（月1程度）で希望者にフォロー・伴走をし、マイプロジェクト実現のサポートをいたします。1年間の終わり（2月頃）には、6月に立てたマイプロジェクトがどうなったかの、報告会を何かしらの形で全生徒対象に実施したいと思っています。

1回目（3月16日／火 9:25～10:05）

◇自分と向き合う時間を作る

まずは、ファシリテーターである水野綾子さんに自己紹介をしていただいた。その上で、4月以降熱海ラボを進めていくための準備として、まずは以下の3点を考えながら、自分自身と向き合う時間とした。

- ・なぜこのコースを選択したのか（現時点の自分）
- ・高校卒業時に、どんな自分になっていたいか（3年後の自分）
- ・実現したい自分になるために、このコースで何を学びたいですか？何ができるようになりたいですか？（3年後の自分を実現するための方法、時間の使い方）

記入内容については、生徒同士で感想を共有した。

2回目（4月15日／木 14:10～14:50）

◇熱海で働く、暮らす面白い大人たち（価値観を広げ多角的に熱海を見る）01

熱海で働く、暮らす大人たちのキャリアや人生、ターニングポイントなどを聞くことで、多様な価値観やキャリアのあり方について触れる。

14:10～14:15 水野さんから本日の流れと、「マイプロジェクト」とは何かの説明

14:15～14:40 A-biz 山崎さんからお話

14:40～14:45 話を聞いてどう思ったのか？ 生徒同士で意見交換。

14:45～14:50 一人ずつ感想をシートに記入した。

3回目（4月22日／木 13:25～15:15）

◇熱海で働く、暮らす面白い大人たち（価値観を広げ多角的に熱海を見る）02

熱海で働く、暮らす大人たちのキャリアや人生、ターニングポイントなどを聞くことで、多様な価値観やキャリアのあり方について触れる。

- 13:25～13:30 水野さんから本日の流れの説明
- 13:30～13:55 能勢友歌さん（熱海キコリーズ団長）お話し
- 13:55～14:20 小林めぐみさん（CLUB HUBlic 代表）お話し
- 14:20～14:30 休憩
- 14:30～14:35 周囲と感想共有
- 14:35～14:45 お二人に聞きたいことなど質問を書く、その場で回収
- 14:45～15:05 一問一答
- 15:05～15:10 周囲と感想共有
- 15:10～15:15 感想シート記入

4回目（5月27日/木 14:25～15:15）

◇熱海で働く、暮らす面白い大人たち（価値観を広げ多角的に熱海を見る）03

- 14:25～14:30 水野さんから愛美さんのご紹介と本日の流れの説明（巻きで）
- 14:30～14:50 伊豆おはな・河瀬愛美さんのお話し
- 14:50～14:55 河瀬さんの話を聞いて質問を書いてもらう
- 14:55～15:00 質問用紙回収。生徒たちはその間、周囲と感想共有
- 15:00～15:15 一問一答

※感想の記入は、時間内に難しいため別途。

5回目（6月3日/木 13:25～14:15）

これまでの4名の話聞いて必要なことと、今後に繋げるアプローチとして、「自分が何をしたいか・何に興味があるか」ではなく、「自分は誰の役に立ちたいか」を考えた上で、その考え方がなぜ必要かを説明の上、下のワークシートをもとに向き合った。



HR 名前 _____

<p>1.あなたは「誰」の役に立ちたいですか？ 誰を喜ばせたいですか？（より具体的に思い浮かべよう）</p>	<p>2.それはなぜですか？</p>
<div style="background-color: black; color: white; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 40px; font-weight: bold;">あ</div>	
<p>3.その人を喜ばせるために足りていないこと。課題は？ 身の回りの「もっとこうなったらいいのではないか」は？</p>	<p>4.1で思い浮かべた人の役に立つために、何から始める？ あなたは何かができるようにならないといけない？</p>

6回目(6月10日/木 13:25~15:15)

- 13:25~13:35 水野さんから今後皆さんが何をしていくかの説明とゲストの説明
13:35~14:15 健康福祉部福祉事務所長寿介護課、小山みどりさんのお話し
14:15~14:25 休憩
14:25~15:15 各自ヒアリングやリサーチ
福祉に興味がある生徒たち(約20名)は小山さんに引き続きヒアリング、それ以外の生徒たちは、自分が前回記入した内容をもとにインターネットなどで情報収集。
15:15 各自終了

7回目(6月24日/木 14:25~15:15)

健康診断後で短い時間ではあったが、7月~2月までの年間計画表づくりを実施した。また、その内容を4-5名くらいで集まって発表し合った。



8回目(9月30日/木 13:20~13:40)

学校祭に向けての準備があるため、短い時間となってしまったが、マイプロジェクトの確認と、その実現のために2月までに各自でやることを再確認した。

9回目(10月28日/木 13:20~13:40)

アンケートを実施し、自分が何の分野に興味があるのかを改めて確認した。その上で、自分の将来の夢を設定した。さらに、目標を達成する上で必要な短期目標を決めるため、マンダラアートの作成を始めた。

10回目(1月27日/木 13:25~14:15)

引き続き、マンダラアートを作成した。手が進まない者は、友人からアドバイスを貰い、何とか手を進める様子が多く見られた。



11回目(2月3日/木 14:10~14:50)

クラスごとに作成したマンダラアートの発表会を行った。人に自分の考えを伝える姿勢、人の話をじっくりと聞く姿勢を育むことに繋がっていた。また、人の発表を聞く中で各自のキャリア観が深まっている様子が見られた。



※学年全体での発表会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症対応や大雪のため、延期となってしまっている。今年度中に予定を組み、実施したいと考えている。

取り組みの成果

(1) 教員や親以外の大人と触れることで、地域の面白さを体感してもらう

1学期は、水野さんの力添えのお陰で、地域の人々の実際の声を聞く機会が多く得られた。地域の課題について考え、そこから様々なことを知り、熱海の良さを理解しようとする生徒が増えたように感じる。

(2) 生徒の視点や価値観を広げる

マンダラアートを作成する中で、生徒同士互いのキャリア観に触れることにより、自分以外の人の価値観について考え、自分なりに理解しようとする生徒が増えたように感じる。

(3) 小さな成功体験を積んでもらう

「自分の考えが整理できた」「発表資料を完成できた」といったように大きなテーマの中で、いくつもの小さな成功体験を積んでいる生徒が多かったように感じた。

(4) 地域に根差したキャリア教育に繋がる

熱海ラボを通じて、キコリーズさんや熱海市健康福祉部との繋がりが出来たことで、今後の総合的な探究の時間のヒントが見つかったことと、伊豆おはなへのインターンシップ希望者が出てきたことが大きな収穫であった。

【参考】 マンダラアート作成のためのプリント

月 5000 × 12 = 60,000

	y 600,000
--	--------------

マイプロジェクトを作成しよう！
HRNO () 氏名 ()

<自己分析>
Q. 先ほどのワークで自分の興味のある分野や仕事についてまとめましょう。

福祉(社会福祉士)
の役に立つこと。

Q2. Q1で書いた内容を将来の夢にする時、以下のどこに当てはまりますか??

できる

② ①

やりたくない ← → やりたい

③ ④

できない

Q3. 将来やりたいことを実現させるためには、何をすべきでしょうか？
裏面のマンダラートに書いていこう！

生徒が完成させたマンダラアート

(1) Aさん 歯科衛生師を目指す生徒

人の心を こつ	清潔に	元気	目標達成を 目指す	専門学	技術	学校で こつこつ	資料を見る	インターネット
優しい	人間性	笑顔	生活習慣	国家資格	実技	学校の 説明会参加	職業 理解	身近の人に 相談
病まない	体力強化	外面木切	睡眠	ねほり	不十分 なところ を 前向きに 改善	資料を 集める	動画を見る	先生に 相談
生活リズム	環境	雰囲気	①人間性	①国家資格	②職業理解	通勤の 通える距離	社長の 部下になる	仕事場を こつこつ
大切にして しつこくやる	勉強	やる気	①勉強	②歯科衛生師	③仕事の場所	法廷で 安全か	仕事の場所	ねほり 所 で やる
復習	テスト 高得点	国語英を 基本的に かみはる	②一般常識	⑦お金	③コミカ	通いやすい ところが	車の免許	人通りが多い
新聞を読む	文字を 丁寧に書く	日本語を 強くなる	仕事をこつこつ	バイト	預金	たくさん 人と話す	本で音読 する	人と話さ 練習をする
礼儀	一般常識	挨拶	入居しを 節約する	お金	ムダな ことを しない	ニュースを 見る	コミカ	新しい 言葉が
語先後礼	ハフキと 話す	時間を 守る	お金の管理 いかに 把握する	家計簿を かく	目標を 求める	家族と 話さす	国語	敬語

【作成した感想】書いていくのが想像以上に大変だった。でも、進路実現のためやるべきことが沢山あると分かって良かった。計画的に準備をする必要性を感じた。

(2) Bさん ファッションプランナーを目指す生徒

いろんな スタイルの 格好の 大見	知識が 求む ある人 に おすす められ たい	古着屋 さん で 買 い 取 り の 服 を 見る	朝早く でも お き か せ る	高校 に お ん り と 行 き 、 卒業 後	高校 の 勉強 を か み は る	人の スタイル に お き か せ る	品の お ん り に お き か せ る	正しい 言葉 を 使 う
良い お ん り の プラン を みる	い ろ ん な プラン を みる	中国、 韓国 の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	専門 学校 へ お ん り を みる	お ん り の プラン を みる	頭 の中 で お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	正しい 言葉 を 使 う
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる
お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる	お ん り の プラン を みる

【作成した感想】頭の中で考えるだけでなく、ちゃんと行動に移すことを意識して生活していきたい。

(3) Cさん 水族館の飼育員を目指す生徒

色々な魚を覚える	勉強する	質問をする	専門に行く	本を見る	ネットで調べる	優れる	コミュニケーションをとる	親切にする
本を読む	知識	1日1時間時間をとる	日本中の水族館を巡る	技術	挑戦する	友達とパソコン作る	人	挨拶をする
ネットで調べる	人に聞く	YouTubeを見る	シミュレーションする	練習する	実践する	商店街に行く	趣味をやる	近所付き合いをよくなる
寝たひい	毎日自炊	毎日運動	① 知識	② 技術	③ 人	むだづかいをしない	宝くじ	よく働く
おしそ散	健康と生活	美味しい物を食べる	④ 健康と生活	美ら海水族館で飼育員	⑤ 金	貯金する	金	がまんをする
毎日7時間以上勉強	温泉へ行く	入浴しすぎない	⑥ 41の事をする	⑦ 運	⑧ 沖縄	自給自足の生活	エネルギーの節約	計画を立てる
ネットを見る	ペットを飼う	旅行に行く	おみくじを引く	ゴミを拾う	神社に行く	沖縄旅行	海を知る	郷土料理を食べる
ラーメンを食べる	好きな事をする	ゲームをする	1111事をする	運	人に親切	熱さに強くなる	沖縄	信を覚える
散歩をする	バレーボールセンターへ行く	ボレーボール	流木を見る	カキを引かない	貯金する	郷土料理をつくる	ネットをする	沖縄を好きになる

【作成した感想】 今後の人生の計画を練る、良い機会になったと思う。

(4) Dさん 社会福祉士を目指す生徒

むだづかいをしない	家から持参する	がまんする	悪口を言わない	恥をつかない	日記をやる	1日15分以上勉強する	小論文を書く	休みの日は30分以上勉強する
ジースは週1	お金	お菓子は月3	嫌いな人と一緒にいない	人間関係	思いやりの長持ちをこつ	常識を学ぶ	勉強	机の前は座ることから始める
長期休みにバイトをする	お金がある日に貯金する	外食をしすぎない	一緒にいて楽しい人とする	話しやすいと話す	言葉遣いを気をつける	面接練習をたくさんする	今から社会福祉の勉強をする	集中力を高める
早寝早起きをする	バランスの良い食事	カップラーメンを食べすぎない	① お金	② 人間関係	③ 勉強	友達をつくる	2年間頑張る	勉強をたくさんする
水は1日2L	生活習慣	野菜を1日1回食べる	④ 生活習慣	⑤ 社会福祉士	⑥ 進学	子どもについて学ぶ	進学	最後まで諦めない
おかしやジュースを食べすぎない	運動 1日30分以上	自炊する	⑦ 笑顔	⑧ 実習	⑨ 人間性	福祉について学ぶ	親に手紙をもらう	受験資格をとる
楽しく過ごす	常に笑顔でいる	友達とパソコン遊ぶ	記録の書き方	利用者とコミュニケーションをとる	色々な施設に行く	礼儀	常識	挨拶
ストレスを解消する	保健	家族と会話をふせす	職場の人とコミュニケーションをとる	実習	大変さを知る	気遣い	人間性	態度
辛くてモロ角を上げる	楽しいことをする	心から笑う	関わり方を学ぶ	利用者の生活を知る	人を好きにする	心配り	がまん	言葉遣い

【作成した感想】 自分の目標が明確になって良かった。毎日やれることを全力で頑張っていきたい。

ビジネス観光類型

対象生徒：2・3年 ビジネス観光類型
指導教員：商業科教員

地域連携実施協力者
熱海伊東法人会・熱海税務署
あいら伊豆農業協同組合
熱海市農業委員会・清水町観光協会
ニコサービス・ニューとみよし

取り組みの概要

1 この木？何の木？レモンの木！プロジェクト

計画：「日本のレモン発祥の地は熱海であった。」をきっかけに、熱海レモンを生徒自らが栽培することで、安心安全な熱海産レモンを全世界に発信する。広報と同時に、小中高と地域が連携し、熱海産レモンの販売、加工品開発及び販売を行う。商業科目「ビジネス基礎」にて対応する。

生徒：2・3年ビジネス観光類型、パソコン部

協力企業：JA あいら伊豆 熱海市農業委員会

2 「熱海高校生エージェント（AHA）& 高校生ホテル」

計画：「熱海高校生ホテル」と「熱海高校生エージェント」を統合した実習である。昨年度、一般客を募り実施を試みたがコロナで断念した。今年度は、ホテル実習および旅行業体験実習を実施する。安心・安全を保障できる団体客の受け入れおよび、昨年度ツアーに申し込みをしていただいた方限定に呼びかけ、高校生ホテルの実施を行う。

学校設定科目「観光資源」、商業科目「課題研究」にて対応する。

生徒：3年ビジネス観光類型

協力企業：ニューとみよし、ニコトラベル、各観光施設

本番：令和3年11月25日（木）・11月26日（金）1泊2日（ツアー）

令和3年12月14日（火）・15日（水）1泊2日（高校生ホテル）

3 起業家育成プロジェクト（租税教育プログラム）

計画：商業科目「ビジネス基礎」において、8年目を迎えるプロジェクトである。

熱海伊東法人会による授業を年間3回実施し、税金についての理解を深めつつ、プレゼンテーション能力の育成を目指す。

過去この授業において、「泉ちゃんゼリー」が誕生している。昨年度は熱海駅ビル「ラスカ」にて4グループに分かれて販売実習を行った。今年度の授業内容もすべて、熱海伊東法人会が教材を作り対応していただく。商業科目「ビジネス基礎」にて対応する。

生徒：2年ビジネス観光類型

協力企業：熱海税務署、熱海伊東法人会

4 熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会事業

内容 : 商業科目「観光資源」において、熱海市駅周辺に集まる観光客を伊豆山や南熱海などに分散させる。そのために、隠れた熱海の観光資源を生徒が動画撮影し、ジョルダンのアプリ「乗換案内」サイトにリンクさせ集客を図る。

生徒 : 3年ビジネス観光類型

協力企業 : 協議会、熱海商工会議所、熱海市観光協会、熱海温泉ホテル旅館協同組合、熱海芸妓置屋連合組合、静岡県タクシー協会熱海支部、ホテルニューアカオ 沼津工業高等専門学校、ジョルダン

取り組んだこと

1 この木?何の木?レモンの木!プロジェクト

令和3年4月14日(水) 1・2限 レモンの木 植樹(鉢) 11本

6限 レモンの木 植樹(鉢) 15本

20日(火) レモンの木 植樹(鉢) 4本

9月 多賀小・多賀中・本校のレモンの木 追肥

※卒業前に植樹する場所を生徒各自が交渉依頼、植樹して卒業

①令和4年3月中旬～下旬 3年生が育てた植樹(鉢) 11本を熱海市内に植樹予定

②令和4年4月上旬 新2年生16人分のレモンの苗木購入

2 「熱海高校生エージェント(AHA) & 高校生ホテル」

令和3年11月25日(木)・11月26日(金) 1泊2日(ツアー)

○ 静岡聴覚特別支援学校中学部の修学旅行生受け入れ

令和3年12月14日(火)・15日(水) 1泊2日(高校生ホテル)

○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、宿泊者募集を限定して行った。

今回の募集は、

①昨年度ツアーを申し込まれた方

②2018高校生ホテルを申し込みされた方で、残念ながら当選されなかった方

③静岡県内にお住まいの方

④上記以外の教育関係者

今年度の宿泊者14組大人33人(一般11組25人、教育関係者3組8人)

宿泊者詳細:浜松市、静岡市、富士市、裾野市、袋井市、富士宮市、函南町、熱海市

【実習内容】

日時	場所	内容	講師等
6月14日(月)	ニューとみよし	熱海基幹産業「観光宿泊業」が求めること、高校生ホテル実施に向けて	富岡 篤美
6月15日(火)	ニューとみよし	1限～3限 現地実習 1集団(5～6名)	ニューとみよし スタッフ
6月16日(水)	ニューとみよし	1限～3限 現地実習 1集団(5～6名)	ニューとみよし スタッフ

6月18日(金)	ニュー とみよし	1限～4限 現地実習 5限～6限 現地実習 3集団(5～6名)	ニューとみよし スタッフ
6月22日(火)	会議室	ツアープランニング研修	ニコーバス 関 政則
6月23日(水)～ 7月上旬	会議室	沼津聴覚特別支援学校 ZOOMによる交流授業(3回) ツアープランニング	沼津聴覚 伊東
7月14日(水)	国際教養 選択1	静岡聴覚特別支援学校 ZOOMによるツアープランプレゼン	静岡聴覚 勝又
7月末		静岡聴覚特別支援学校 プレゼン後、ツアープラン決定	静岡聴覚 勝又
10月～本番まで	ニュー とみよし	フロント・レストラン・客室担当 現地実習	ニューとみよし スタッフ
10月25日(月)	校外	ツアーガイド研修 オラッチェ・伊豆山徳田椎茸園	ニコーバス 関 政則
10月29日(金)	校外	ツアーガイド研修 柿田川湧水・三嶋大社・山中城址	三島市ボランティア 清水町観光協会
11月10日(水)	校外	ツアーガイド研修 来宮神社・お宮の松・熱海駅周辺	本校教員
11月8日(月)～ 11月19日(金)	校内	沼津聴覚特別支援学校生徒による ツアーガイドの手話動画撮影 ツアーガイドする生徒は手話を習得	本校教員
11月25日(木)～ 11月26日(金)	校外	静岡聴覚特別支援学校 中学部 修学旅行 添乗 高校生ホテル	ニコーバス ニューとみよし
12月14日(火)～ 12月15日(水)	ニュー とみよし	高校生ホテル 本番	ニューとみよし スタッフ

3 起業家育成プロジェクト(租税教育プログラム)

第1回6月16日(水) 14:25～15:15(6限)

第2回9月15日(水) 14:25～15:15(6限)

第3回9月29日(水) 14:25～15:15(6限)

○ 租税教育及びプレゼンテーション能力の育成

熱海伊東法人会の会員及び熱海税務署職員による連携授業の実施(約20人の参加)

4 熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会事業

○ 「乗換案内と連携する熱海の新しい魅力発信サイトのコンテンツ作成」

～(新企画) 高校生の力で新熱海発見! 熱海魅力発信プロジェクト～

あいのりタクシーアプリ内動画コンテンツ作成提供

a. コンテンツ作成の実践 b. CMSを使ったHP作り

c. 実際に行うコンテンツ作成事業計画と見積もり作り

【講座時間・内容】

第1回 9月17日（金）13:20～14:00（5限）

第2回 10月 8日（金）13:25～15:15（5・6限）

第3回 10月11日（月）13:25～15:15（5・6限）

第4回 10月18日（月）13:25～15:15（5・6限）

■動画の種類・活用 ■スマホでの写真・映像の撮り方基本

■構成の作り方（文字コンテ・絵コンテ・写真コンテ） ■構成を基にどう撮影するのか？

■構成（シナリオ）を完成させる 宿題：Vitaを自宅でダウンロードしてくる

【観光客ニーズ調査】

アンケート実施日 令和3年12月17日・18日・19日 187人

アンケート項目

性別、年齢、職業、職種、誰と何人、どこから、熱海訪問回数、目的、日帰り、宿泊、移動の交通手段、訪問観光資源、予算、宿泊先、熱海の魅力、買い物、楽しかった場所、おいしかったもの、熱海に求めるもの、あいのりタクシー、リピーター

【校内動画コンクール】

名称：熱海高校動画コンクール

主催：熱海高校

協賛：熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会

ジョルダン株式会社

実施の目的：熱海市の観光活性化・地域活性化

実施期間：2021年12月23日～2022年1月7日まで

募集する動画のテーマ：「紹介したい熱海市の魅力」

募集する動画の内容：

熱海市の風景や、自然、景勝地、施設*について紹介する15秒以上1分未満の動画

*自然や景勝地の素晴らしさの紹介はもちろんの事、熱海ならではの文化の紹介、観光施設の利用風景や、熱海に住みたくなるような社会資源やその活用風景紹介も含む。

取り組みの成果

1 この木？何の木？レモンの木！プロジェクト

ビジネス観光類型を選択した生徒は、2年次4月にレモンの木を必ず植樹する。日本のレモン発祥の地である熱海をきっかけに、観光客数に熱海市経済が左右されることなく経済維持させるための資源として「熱海レモン」をテーマに地域活性化に挑戦する。

自らがレモンを育てることから、レモンに対する知識を深め、レモンを育てることだけでも地域連携ができる。レモンの実がなれば、おのずと流通経路も考え、地域連携による商品開発も行えると考えている。

自らが2年間育てたレモンを、熱海市内に植樹することで熱海でのレモンの知名度も高まる。あらゆることが波及効果となり、生徒の興味関心に結びつくことになる。

2 「熱海高校生エージェント (AHA) & 高校生ホテル」

コロナ禍だからこそ、深く考え、自らの経験を積むためにも実習機会の確保を考えた。高校生エージェントのお客様を一般募集するのではなく、安心安全が保障されている団体の受け入れを考えた。今年度は静岡聴覚特別支援学校中学部の修学旅行受入に挑戦し、特別支援学習（手話）も取り入れ、思い出に残る修学旅行を作り出すことができた。

ツアー場所の選定、ガイド練習、行程表の作成、プレゼンテーション、当日の運営など、地元企業のニコーサービスによる御指導のもと実現することができた。また、宿泊先として、高校生ホテルの同時実施も行った。

修学旅行生の受け入れとは別に、ビジネス観光類型全生徒で高校生ホテルを別日に実施した。現地実習では、従業員とのコミュニケーション手段として実習日誌を用い、従業員との連携を深められたことで生徒各々が、技術面でも精神面でも大きく育った。

高校生エージェント及び高校生ホテルによりほとんどの生徒が達成感を得られた。

3 起業家育成プロジェクト（租税教育プログラム）

今年度、年3回の連携授業を行い以下のとおりの成果が得られた。

昨年度までは普通教室にてグループワーク及びグループディスカッションを熱海伊東法人会の会員の方に必ず1人入っていただき、授業を進めていただいた。地元企業で働く社長様から、「生の声」をいただきながら、課題に対して助言を受けることができ自分たちのプレゼンテーション能力の育成にも結びついていた。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、普通教室を使用せず、図書室を会場として生徒は講義型の体制で取り組む形になった。その影響で、グループワークもできず一方的な説明で終わってしまった。法人会の会員の模擬演説を聞いての、模擬投票も実施したが、生徒の主体性や積極性を引き出すことができなかった。

4 熱海次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会事業

あいのりタクシーの利用促進をテーマに、熱海の観光資源のPR動画作成に挑戦した。マーケティングの仕方や動画コンテンツの作成の仕方を学び、校内動画コンクールを企画したことで、ビジネス観光類型の生徒だけではなく学校全体での取り組みに移行できた。

今後取り組むべきこと

レモンの木プロジェクトでは、継続的に植樹を行うことで熱海レモンをきっかけとして地域連携を一層深めていきたい。熱海高校生エージェント&高校生ホテルでは、新型コロナウイルスが終息したあとのインバウンド対応のため、英語科との教科横断的な取り組みを行う。また、高校生ホテルとして、生徒自らが宿泊体験を行うことにより宿泊客目線で考えさせ、より高度な接客スキルを身に付けさせたい。熱海伊東法人会による連携授業では、社長さんの経験談をグループワークにて生徒に訴えてもらい、企業で利益を得ることの意義と税金への繋がりを学ばせたい。

ビジネス観光類型では、あらゆる取り組みに関し、他類型を履修する生徒と協働する（教科横断的に取り組む）ことが、生徒においても、地域・企業においても最良であるとする。

福祉類型

対象生徒：福祉類型3年

指導教員：福田千恵・永吉優里

地域連携実施協力者 ジョルダン株式会社 株式会社 ILC-Technology

熱海観光サービスプラットフォーム協議会

静岡県タクシー協会熱海支部 株式会社エクトラ

株式会社イイガ 医食促進協会

取り組みの概要

1. 社会資源マップの作成

熱海市においては、高齢赤率が47.8%と静岡県内の市の中で最も高く、バス路線も縮小傾向にあり、高齢化による免許返納者も増えている。このような中、身体的、体力的な理由から、一人でゴミ出しに行くことができない高齢者や、交通不便地域に住み、一人で買い物や各種サービスを利用できない高齢者が増えてきている。

そこで今回、熱海市において、観光庁予算で、「あいのりタクシー」を用いた地域観光産業活性化と地域交通弱者の支援を計画するジョルダン株式会社が主催する熱海観光サービスプラットフォーム協議会と連携し、前述の地域交通弱者活動支援のための、「あいのりタクシー」連動型のスマートフォン対応社会資源マップシステムを構築することとした。

<目的>

- ① 高齢者の生活支援
- ② 高齢者の生き甲斐創造支援
- ③ 地元の高校である熱海高校の社会貢献とそれによる社会的評価の向上

2. 健康食×介護食レシピの開発

糖尿病患者をはじめとした生活習慣病患者で、食事面での糖質・塩分制限のあっても、食材選びや調理を工夫し、健康的且つ美味しい料理を提供することを目指している「医食促進協会」という団体と連携し、健康食レシピ考案に向けた栄養、調理の基礎知識や技術を御教授いただく。そして、知識・技術を元に対象者を限定して健康面や食事形態に配慮したレシピを考える。また、レシピを地元の飲食店や福祉施設でメニュー化していくための手立てについて学んでいく。

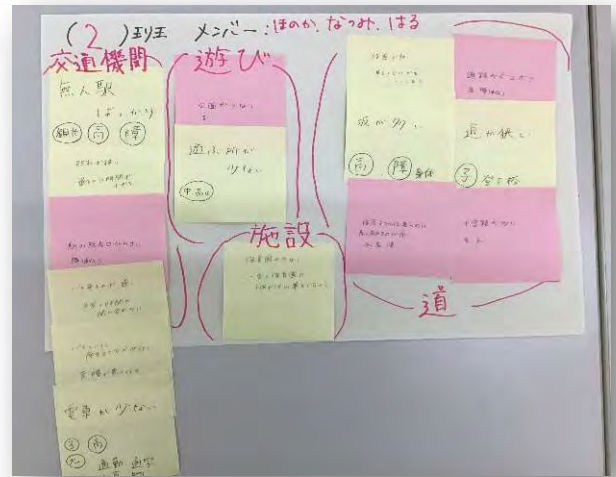
<目的>

- ① 健康食レシピの基礎的な知識を身につける
- ② 健康食と介護食のコラボ商品開発の基盤づくり

取り組んだこと

1. 社会資源マップの作成

- 『「住みやすい街」について考える』
地域の課題に目を向けさせるために、「住みやすい街」というテーマで生徒に理想の地域を考えてもらった。
交通機関の本数や、バリアフリーの拡充若者が遊べる場所について考えている生徒が多かった。



- 9月
熱海市社会福祉協議会のスタッフの方やいきいきサロンのスタッフの方に高齢者の移動のニーズに関するインタビューをZOOMで行った。高齢者の方は免許を返納した人が多く、移動に困難を抱えている高齢者が多いことが分かった。
- ジョルダン株式会社 株式会社 ILC-Technology の石田様より、コンテンツ作成に関する講座

【講座時間・内容】

- 第1回 9月17日(金) 13:20~14:00 (5限)
- 第2回 10月 8日(金) 13:25~15:15 (5・6限)
- 第3回 10月11日(月) 13:25~15:15 (5・6限)
- 第4回 10月18日(月) 13:25~15:15 (5・6限)

- 動画の種類・活用 ■スマホでの写真・映像の撮り方基本
- 構成の作り方(文字コンテ・絵コンテ・写真コンテ) ■構成を基にどう撮影するのか?
- 構成(シナリオ)を完成させる 宿題: Vitaを自宅でダウンロードしてくる

- 11月17日(水) 「アンケート調査の協力依頼」
熱海市役所へ訪問し、アンケート調査の協力依頼をした。熱海市役所の長寿介護課や熱海市社会福祉協議会のスタッフの方に生徒が作成したアンケート用紙をお渡しし、アンケートの協力を求めた。
- 11月25日(木)
ジョルダン株式会社 株式会社 ILC-Technology の石田様より、アンケート調査結果の入力について教授していただいた。

●12月14日（火） 「移動に関するニーズ調査の実施」

以前に作成したアンケート用紙を活用して熱海市在住の人（高齢者を中心に）にインタビュー調査を行った。

午前中は熱海市街で街頭アンケート調査を実施し、午後からは、伊豆山仲道公民館にてフレッシュサロンの利用者にアンケート調査を実施した。



2. 健康食×介護食レシピの開発

●11月26日（金）『メディシェフ』に関する講話及び調理実習」

三島ロザートの笹俣様を講師に招いて、糖尿病患者を対象とした健康食レシピについて紹介していただいた。また、『メディシェフ』の取組みについても教えていただいた。標準体重と労作状態から、1日の適正エネルギー摂取量を計算して出した。講義の後は、実際に健康食レシピを班ごとで作りと、試食をした。



メニュー

- ・鶏肉と彩野菜のバルサミコ酢炒め
- ・ナスとチーズの挟み焼き
- ・豆乳プリン黒蜜ソースがけ

●12月15日(水) 「介護食×健康食の調理実習」
介護食と健康食をコラボ食の調理実習を行った。
また、介護食では「容易に噛める」「舌でつぶせる」
「噛まずに食べることができる」という3つのレベル
の介護食を食べ比べし、感想をまとめさせた。



取り組みの成果

1.社会資源マップの作成

あいのりタクシーサービスを開発するにあたって、
高齢者の移動に関する困りごと、ニーズを調査でき
たことが大きな成果である。ニーズ調査では、熱海市
街や伊豆山のいきいきサロンに出向いて調査を行い、
60人程度の人へインタビュー調査をすることができた。
生徒は、初めは緊張していたが徐々に慣れていき積極
的にインタビューを行っていた。また、伊豆山の公民
館でのインタビュー調査の対象者の中に伊豆山土砂災
害被害を受けた人もいて、インタビューを通して被災
者の心に寄り添いながらコミュニケーションを図るこ
とができ、良い経験になった。

また、そのアンケート調査からあいのりタクシーの
実証実験を実施することができた。



リンク [元気!しずおか人 2022/01/29 - YouTube](#)

2.健康食×介護食レシピの開発

今年度から始めた「メディシェフ」に関する取り組みで、三島市にあるイタリアンレストラ
ン「ロザート」のオーナーシェフでありでメディシェフの有資格者の方を講師に招き、カロ
リー計算の方法や調理の基本について講義をしてもいい、健康食の基礎知識を学んだう
えで調理実習を行うことができた。クッキングシートの上で食材を焼くことや、珍しい調味
料を使う等、普段の生活の中では使わないような知識や技術を学ぶことができていた。

また、健康食の調理実習の知識を活用し、健康的な鮭の蒸し焼きを作った。蒸し焼きにし
たのは、焼くよりも蒸して食べると食感が柔らかく食べやすくなることや、焼くよりも蒸す
方が油を使わずにカロリーを抑えることができる、ということまで結び付けて学ぶことが
できていた。

今後取り組むべきこと

1. 社会資源マップの作成

今後取り組むべきこととしては、4つある。

1つ目はあいのりサービスの利用方法の動画をアップすること。アプリを上手に使用できない人に対して、あいのりタクシーの利用動画をアップすることで、利用率の向上を目指す。

2つ目は、実際に自分自身や家族と一緒にサービスを利用し、あいのりタクシーの利用を促進していくことである。生徒自身が利用するだけでなく、家族も巻き込んで利用し、利用する世代の幅を広げていく。

3つ目は、高校生がスマホの使い方を教える機会を設け、高齢者のあいのりサービスの利用を促進させる。スマホを持っていても使い方が分からない方が多いと思うため、スマホ教室を開催し、使い方を教えることで高齢者のあいのりタクシーの利用率の向上を目指す。

4つ目は、紙媒体でのマップを提供する。実際にアンケート調査を行い、スマートフォンを持っていない高齢者の方も多くいた。そのため、紙媒体でも社会資源マップを作成する必要がある。

2. 健康食×介護食レシピの開発

今後の取り組むべきこととしては、2点ある。

1つ目は、福祉施設の管理栄養士や、メディシェフの有資格者に生徒が考えた健康食・介護食のレシピの評価をってもらうことである。今年度は、健康食レシピに関する知識と技術を講座・調理実習で身につけることはできたが、実際に高校生が考えたレシピを第三者の視点から評価をってもらうことができなかった。そのため、客観的な視点からレシピの評価をしていただくことで、生徒はやりがいや、達成感を感じることができ、新たな課題を探求していく動機付けになると考える。

2つ目は、地元の飲食店や介護福祉施設にてメニュー化してもらうことである。生徒が考えたレシピをメニュー化してもらうことで、熱海市に住む人の健康を食事から守っているという実感を、生徒は感じることができる。

パソコン部

対象生徒：パソコン部
指導教員：パソコン部顧問

地域連携実施協力者
熱海高校管内の企業

取り組みの概要

これまで、主にタイピング練習と情報関係資格取得に向けての演習を行っていたが、パソコン室という閉鎖的な空間で静かに活動するだけでなく、時には外に出て様々な生活体験をさせることで学校や地域に寄与する態度を育て、自己肯定感や自己有用感を醸成したいと顧問は常々考えていた。

パソコンを中心とした活動を継続しつつも、地元企業と協働して開発した新商品の販売活動を通じた熱海高校プロモーションや、地元食材（漁業・農業）を利用した新商品開発とコンテストへの参加や販売、部員の居住する熱海・伊東・湯河原・函南などの地域研究等、幅広い活動をしている。

取り組んだこと

【新商品販売実習】

パン樹久遠と協働して完成した「純情熱海檸檬スコーン」の販売を中心に活動した。

2021年4月 入学式での試用販売

12月 国立中央青少年交流の家オープンハウスでの販売実習



取り組みの成果

(1) 生徒の自己肯定感・自己有用感の向上

中学校時代は二番手三番手で、あまり周りから認められなかった生徒が、様々な生活体験をしたことで、達成感や成就感を得る経験を積むことができた。部員たちで育てた農作物の収穫時や、販売実習での完売時の表情を見るにつけ確実に育っていることを実感した。

(2) コミュニケーション能力の向上

様々な年齢層や各種業界のエキスパートとの交流で、それぞれの立場に応じたコミュニケーションの取り方が上達したと感じた。特に販売実習では、お客様と接する中で自然に身に付いたものも多く、自信につながった。児童や幼児には目線の高さを合わせて平易な言葉で話したり、お年寄りには大きな声でゆっくりと対応したり、専門家の話にはメモを取って質問を繰り返すなど学校以外の現場で身に付いたものが多い。

今後取り組むべきこと

地元菓子組合と連携し、新商品の開発と継続的な販売を行ったり、地元水産会社と連携し、ひもの作りと販売、未利用魚の活用と商品開発を考えたりする。伊豆地区の農家や生徒の保護者と連携し、漬物作りやジャム作りや地域住民対象のパソコン教室など夢は膨らむ。

コロナ禍で立ち消えになった、熱海市役所と連携した市民教室でのスマホ講座も考えていきたい。

部員が部活動方針を理解し、顧問と対話をしながら活動をより活発にしていきたいと考えている。



報道部

対象生徒：報道部部員 3年生1名、2年生1名、1年生2名
指導教員：顧問 永井幸子

地域連携実施協力者
三島信用金庫 ほか

取り組みの概要

報道部は「学校応援団」をモットーに、本校生徒の活躍や身近なところでの魅力の発見に努め、新聞を作成している。校内新聞「熱高ニュース」の製作を月1回を目安に活動している。さらに高校生と地域をつなぐことを目指し、高校に関わる校外の情報についても記事に盛り込む活動を始めている。

また、地元金融機関、他校新聞部との協働による紙面作成も行っている。これは三島信用金庫が地域創生事業の一環として平成29年3月に「まち・ひと・しごと新聞」を創刊したことに端を発している。この事業は地元高校生が地元企業の取材と新聞制作を行うことで、高校生に地域への関心を高めてもらうということを目的としている。

本校は平成29年度（平成30年3月発行）版より参加し、令和3年度で5回目の参加となる。地元で活躍している優良企業を訪問し、高校生目線での取材を行うことで、地域に根差した魅力ある企業の紹介とともに、地域資源の再確認を促すことにつながっている。

取り組んだこと

1 通常の部活動における「地域とのつながり」

(1) 過年度の活動

令和2年度はコロナ禍のため学校は5月末まで休校になり活動停止であった。そのため、2学期からの活動であった。しかし、郊外の取材は制限され、例年発行している「熱高ニュース」は校内の部活動の取材をして4号発行した。

(2) 本年度の取り組み

本年度は、昨年同様コロナ禍ではあったが、昨年よりは行事も復活し、新任の先生特集、陸上競技会、桃陵祭、新任ALT特集について「熱高ニュース」を4号発行した。また、静岡県高文連秋季文化祭に報道部門として参加し、他校の新聞・報道部員との交流を深めた。



2 三島信用金庫発行「まち・ひと・しごと新聞」

本校報道部が三島信用金庫の「まち・ひと・しごと新聞」事業に参加したのは、平成 29 年度第 2 号からである。新聞作成担当高校については、平成 28 年度は菰山高校写真報道部が単体で取り組み、平成 29 年度からは本校報道部および日本大学三島高校新聞部、平成 30 年度からは沼津東高校新聞部が加わり、4 校で紙面を分担し制作している。

制作のスケジュールは（1）9 月中旬に三島信用金庫からの趣旨説明、参画依頼、（2）10 月初旬に取材企業の選定と企業への取材依頼、（3）10 月末に高校と取材企業の日程調整、（4）12 月末までに企業取材、記事作成、（5）1 月初旬までに取材企業による記事確認・最終データ入稿、（6）2 月末に印刷、3 月 1 日発行、各校の卒業式で配布となっている。企業の選定は、複数社に候補を絞るところまでは三島信用金庫側が、最終的に選考、決定する過程で教員と生徒が関わる形態である。

平成 29 年度第 2 号では、土屋優行静岡県副知事を交えての地域活性化に関する高校生座談会に参加・取材し、記事を作成した。あわせて、熱海にある空調設備の設置、メンテナンスを行う企業「平和エアテック」を取材し、観光産業を「裏方」として支える企業の存在をクローズアップした。

平成 30 年度第 3 号では地元熱海の企業 2 社を取材した。熱海をはじめとする伊豆東海岸で港湾土木、護岸建設をしている「青木建設」と、宿泊業の「秀花園 湯の花膳」を訪問し紙面作成した。

令和元年度第 4 号では、伊東に本社を置く運輸業の「伊豆急行株式会社」、熱海を代表するホテル「ホテルニューアカオ」を取材した。

令和 2 年度第 5 号では、地域密着の新聞社「伊豆新聞本社」と熱海高校近くのホテル「ニューとみよし」を取材した。「伊豆新聞本社」では、新聞を作る心構えや新聞社としての垣根を超えた地元に対する愛を感じた。ホテル「ニューとみよし」ではコロナ禍の混乱の中での取り組みを学んだ。どちらの取材も新入部員にとっては貴重な体験となった。

本年度令和 3 年度第 6 号では、地元熱海の企業、株式会社 machimori を取材した。熱海の街づくりの復活には欠かせない企業で、地元熱海を元気にしたいという熱い思いを感じ取ることができた。1 年生にとっては、本格的な初めての取材となり、大変貴重な経験となった。



取り組みの成果

本年度も昨年に引き続きコロナ禍のため行事等の制限はあったものの、校内新聞では事実を正確に伝えること客観性に基づいて新聞を作成することができた。

一企業での取材では、地域における企業の役割や、地域への貢献についての思いを社長から直接聞くことで、生徒は様々な職種について具体的なイメージを抱くきっかけづくりを得たようである。

更に取材時では、大人に対する質問の仕方、準備の在り方、メモの取り方から名刺の受け取り方まで、地域に出向き社会人と接することで学校での学びでは実現しにくい社会性の涵養につながる学びの機会があった。取材先の社長は高校生に向けてメッセージも語ってくださり、生きること全般に関して、生徒たちにとっては多様な学びの機会となった。

今後取り組むべきこと

本校生徒はコミュニケーションを不得意とする生徒が多い印象がある。報道部部員も決して社交的とは言えないが、だからといって相手に対しての配慮から、生徒を社会に出す場面から遠ざけてしまうのは、かえって問題であると考ええる。コミュニケーションが苦手であるからこそ、より実践・実施の機会を増やす。苦手だからこそ失敗も多いが、失敗も経験と受け止め、失敗することで得ていくことはある。応対してくださる社会人側にもご理解をいただき、高校生を「地域とともに育てる」意識を醸成していきたい。

そのためにも、地域と結びついた活動の領域を広げ、機会を増やしていく必要があると考える。今後は伊東地域の高校、賀茂郡の高校などより伊豆の狭いエリアでの魅力発見への取り組みの協同化とともに、広い目から見た地域を意識できるような視点を変えた地域との取り組みを作り、生徒への学びの機会を設けていきたい。今回の「まち・ひと・しごと」新聞作成では、生徒は様々なことを学んだ。これからの熱海をよりよくしていくためには、高校生である自分たちも意識を変えていくこと、また報道部員として、高校生の視点から地元企業の情報を伝えていく使命を感じたようである。